

北海道医療大学 40年の歩み

本学の沿革

- 1974年 2月 学校法人東日本学園大学設立
4月 薬学部(薬学科/衛生薬学科)開設(4年制)
- 1978年 4月 歯学部(歯学科)開設
大学院薬学研究科(薬学専攻)修士課程開設
12月 歯学部附属病院開設
- 1982年 3月 アイソトープ研究センター設置
4月 大学院薬学研究科(薬学専攻)博士後期課程開設
- 1984年 4月 歯学部附属歯科衛生士専門学校開設
- 1985年 9月 教養部を当別町に移転・統合
- 1986年 4月 薬学専攻科医療薬学専攻開設
12月 佐々木記念館・総合図書館設置
- 1988年 4月 大学院歯学研究科(歯学専攻)博士課程開設
12月 動物実験センター設置
- 1990年 4月 札幌医療福祉専門学校(看護学科/介護福祉学科)開設
10月 医療科学センター医科歯科クリニック開設
- 1991年 4月 札幌医療福祉専門学校(言語聴覚療法学科)開設
- 1992年 4月 札幌医療福祉専門学校(言語聴覚療法専攻学科)開設
- 1993年 4月 看護福祉学部(看護学科/医療福祉学科医療福祉専攻・臨床心理専攻)開設
- 1994年 4月 学校法人名称・大学名称を変更
(学校法人東日本学園・北海道医療大学)
大学基準協会「維持会員校」認定
5月 医科学研究センター設置
6月 茨戸教育研修センター設置
10月 20周年記念会館設置
- 1996年 4月 薬学部(総合薬学科)開設(学科改組)(4年制)
大学院薬学研究科(医療薬学専攻)修士課程開設
保健管理センター設置
- 1997年 4月 大学院看護福祉学研究科(看護学専攻/臨床福祉・心理学専攻)
修士課程開設
- 1998年 6月 情報センター設置
- 1999年 4月 大学院看護福祉学研究科(看護学専攻/臨床福祉・心理学専攻)
博士後期課程開設
- 2000年 4月 NICEセンター(National and International Collaboration and Extension Center)設置
12月 校友会館設置
- 2001年 9月 札幌サテライトキャンパス開設(札幌市中央区)
- 2002年 1月 個体差健康科学研究所設置(医科学研究センター廃止)
3月 薬学部(薬学科/衛生薬学科)廃止(4年制)
4月 心理科学部(臨床心理学科/言語聴覚療法学科)開設
看護福祉学部(医療福祉学科)を(臨床福祉学科)へ名称変更
- 2003年 6月 心理臨床・発達支援センター設置
- 2004年 3月 札幌医療福祉専門学校閉校
4月 大学院看護福祉学研究科(臨床福祉学専攻)修士課程・博士課程開設
大学院心理科学研究科(臨床心理学専攻)修士課程・博士課程開設
- 2005年 3月 看護福祉学部(医療福祉学科臨床心理専攻)廃止
4月 認定看護師研修センター設置
7月 大学病院・歯科内科クリニック・個体差医療科学センター開設
- 2006年 3月 薬学専攻科医療薬学専攻廃止
4月 大学院心理科学研究科(言語聴覚学専攻)修士課程・博士課程開設
薬学部(薬学科)開設(6年制)
- 2007年 3月 看護福祉学部(医療福祉学科)廃止
4月 大学教育開発センター設置
- 2008年 3月 大学院看護福祉学研究科(臨床福祉・心理学専攻)廃止
4月 看護福祉学部(臨床福祉学科)教職課程開設
- 2009年 8月 北方系伝統薬物研究センター設置
- 2010年 4月 大学院薬学研究科(生命薬学専攻)修士課程開設
歯学部附属歯科衛生士専門学校開設(3年制)
10月 薬剤師支援センター設置
- 2011年 3月 大学院薬学研究科(医療薬学専攻)修士課程廃止
歯学部附属歯科衛生士専門学校廃止(2年制)
- 2012年 3月 大学院薬学研究科(薬学専攻)修士課程廃止
4月 大学院薬学研究科(薬学専攻)博士課程開設
- 2013年 3月 薬学部(総合薬学科)廃止(4年制)
4月 リハビリテーション科学部(理学療法学科・作業療法学科)開設
大学院リハビリテーション科学研究科(リハビリテーション科学専攻)
修士課程開設
12月 国際交流推進室(Global Networking Office)設置
- 2014年 3月 大学院薬学研究科(薬学専攻)博士後期課程(3年課程)廃止
歯科内科クリニック(内科)廃止
4月 医療機関名称変更(北海道医療大学歯科クリニック)
地域連携推進室設置

1974-1984

1974年 学校法人東日本学園大学設立

1970年代初頭、北海道内には70を超える無医村地区が存在し、医科系の総合大学は国立以外皆無であった。この医療過疎を解消したいという道民の切実な思いに応えるために、学園構想は動き出した。「東日本学園大学」の名付け親は、当時の北海道知事・堂垣内尚弘(後に本学第3代理事長就任)。1974年2月18日の薬学部設置認可を受けて、学校法人東日本学園大学が創設。1974年4月23日、薬学部第1期生141名を迎え入れた。

象形の外側の3つのUは、建学理念である知育・徳育・体育の3つの全人格的完成を示すとともに、学部協調を表している。中央に配された図形は東日本のデフォルメであり、また成長繁栄する若い樹林であり、本学学生を象徴している。



音別と当別、2つのキャンパス

大学建設構想は、文化的・産業的基盤の向上につながるプロジェクトを模索していた音別町の意向と合致し、雄大な環境の中に教養課程校舎、学生寮、教職員宿舎などがとけ込む大学村のイメージが練り上げられた。また、専門課程校舎と歯学部附属病院を札幌に隣接する当別町に求めることになった。音別町で地鎮祭が行われたのは、1972年10月10日。この日を大学の創立記念日とし、その後、当別町の1974年薬学部専門校舎、1976年歯学部校舎および同附属病院の地鎮祭も、同じ10月10日に挙行されることとなる。



左) 1978年頃の音別キャンパス。教養部校舎のほか、薬草園、アイススケート場、体育館兼講堂などがあつた。
右) 1976年当時、男子寮、女子寮、教職員住宅が設置された大学村。奥に見えるのが教養部校舎。



1974年4月、当別町において現在の金沢地区の町保用地約10万㎡を取得。1975年7月、当別キャンパス薬学部校舎が完成した。

1978年 歯学部開設、歯学部附属病院開院

1978年2月10日、学内関係者はもとより、多くの道民が待ち望んだ歯学部が正式に認可された。歯学部の開設は北海道大学に続き道内で2校目、もちろん私学としては初である。4月17日に行われた入学式には、歯学部第1期生149人が参加した。また、道内の私立大学で初の歯学部附属病院が10月に完成、12月4日開院となった。学生の臨床教育、歯科医学研究のみならず、地域社会の医療福祉の向上が期待されてのスタートである。



左) 1978年10月、歯学部・歯学部附属病院が完成。歯学部附属病院は地下1階、地上6階建ての鉄筋コンクリート造り。治療ユニットは136台を備えた。右) 開院当時の歯学部附属病院待合ホール。

1984年 歯学部附属歯科衛生士専門学校開校

実践的な歯科保健医療の担い手が積極的に求められる中、歯学部附属歯科衛生士専門学校が開校。校舎は歯学部附属病院の東隣に増設した歯学部C棟(別館)の1階・2階に位置し、実習用のユニットやエックス線装置などすぐれた施設・設備を完備した。

1984年5月22日、第1回入学式を実施。2年制で1学年の定員は50名。





左) 1983年頃の当別キャンパス全景。1979年に体育館兼講堂、総合グラウンド、総合食堂、1982年にアイントゥー本研究センターが完成。1981年、札幌線(現学園都市線)大学前駅が開設。上) 1983年頃の音別キャンパス全景。1985年7月開校、当別での教養・専門一貫教育がスタートした。

1985-1994

1986年 佐々木記念館・総合図書館完成

創設当時の「緑の学園都市構想」に基づき、1970年代後半から、体育館、総合グラウンド、総合食堂の建設など、充実したキャンパスライフを実現するための環境整備に次々と着手。中でも、1986年11月に完成した佐々木記念館・総合図書館は、近代的な佇まいで大学のシンボルの建物となった。旧教養部・旧薬学部・旧歯学部の各図書室を統合。1987年1月から供用開始した。



左) 佐々木記念館・総合図書館は、RC造り地下1階・地上5階建て。25万冊所蔵可能。右) 1985年9月、薬草園の整備が完成(わたなべ山散策路、見晴台)。標本園・栽培園を合わせて3,900㎡。温室内と標本園・栽培園を合わせて約620種の薬用植物を保有。

1990年 札幌医療福祉専門学校開校、 医科歯科クリニック開院

あいの里における札幌医療福祉専門学校と医科歯科クリニックの建設計画は、1989年から着手された。医療・教育・福祉・健康の各分野にわたり、教育研究的資源を地域社会に還元することが目的である。計画通り、1990年4月に札幌医療福祉専門学校が開校。看護学科(3年制)41名、介護福祉学科(2年制)78名が入学した。また、同年10月に医科歯科クリニックが開院。医科診療部、歯科診療部、薬品情報室が設けられ、地域住民への高度な医療サービスと、卒業生の生涯学習支援の体制を整えることになった。1991年からは入院施設を稼働させ、同時に学生の現場指導もできるようにするなど、「教育・研究・医療奉仕」の三位一体が実現した。



左) 1990年4月10日に開校した、札幌医療福祉専門学校。従来の入院看護から在宅ケアへのニーズが高まる中、看護・介護に携わるスタッフを養成し、新たな医療環境をつくりだした意味は大きい。右) 1990年10月1日に開院した、医科歯科クリニック。札幌市街〜あいの里〜当別という医療の連携が確立し、日本都市整備公団が進めていた「あいの里プロジェクト」にも大きく貢献することとなる。

1993年 看護福祉学部開設

建学以来、医療系総合大学の確立を目指してきた中で、全国に先駆けて看護・福祉の4年制学部・学科の設置を計画していた。看護福祉学部の新設は、1992年12月に認可。1993年4月、看護学科80名、医療福祉学科医療福祉専攻90名、同臨床心理専攻51名の学生を受け入れ、ここに第3の学部が誕生した。看護と福祉を統合した学部は全国初の試みで、時代のニーズに即応したものであった。そして、「保健・医療・福祉の連携統合」というテーマを掲げ、これに対応する教育システムを構築した。



上・左下) 1993年4月、第3の学部である看護福祉学部が開校。高齢化社会で求められる全人的ヒューマンケアの担い手を育成するために、従来とは違った新しい看護教育・福祉教育がスタートした。右下) 1993年5月、看護福祉学部開設記念祝賀会を開催。

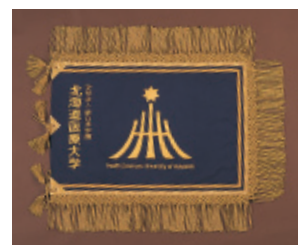
1993年 21委員会が230の改革提言を発表

1990年代、大学は18歳人口の減少という厳しい時代に突入しようとしていた。さらに、文部省は1991年7月、大学設置基準を大幅に簡素化・大綱化した「新大学設置基準」を施行。この改正は、個々の大学の運営方法によっては、大学間競争に勝ち残らなくなることを意味していた。そうした中、本学ではすでに1990年8月から、大学改革を検討する「21委員会」が活動を開始。看護福祉学部の開設、教育理念「保健・医療・福祉の連携統合」の制定、特色あるカリキュラムへの改善などをはじめとする230項目の改革提言は、1993年3月、「魅力ある大学づくりのために〜東日本学園大学の現状と課題〜」として1冊の本にまとめあげられた。



1994年 北海道医療大学に大学名称変更

21委員会発足の際、「校名検討委員会」が設けられ、本格的な大学名称変更の動きが活発化した。校名検討委員会では、関係方面から寄せられた候補名称を絞り込み、アンケートで印象度・好感度を問うなど検討を重ねた上で、最終的に「北海道医療大学」を新名称とする結論を得た。なお、学校法人名称は学園の歴史を考慮して、「学校法人 東日本学園」に決定した。名称変更は、20周年記念を契機とする1994年4月に実施。それに伴い、1995年3月、JRの駅名も「北海道医療大学」に変更された。



学校法人 東日本学園
北海道医療大学
校名変更に伴い新たに制定された校章には、北海道と新校名の欧文表記 Health Science University of Hokkaido の頭文字 HSH の上に北極星をイメージした星を配置。なめらかなカーブを描いて上昇する H は、裾野の広い教育体系に支えられた学生の豊かな人間性や、医療科学・技術の向上を表し、天空の星はそれを導く「光」であると同時に、保健と医療と福祉の連携・統合を目指す大学の教育理念を象徴したものである。



左) 1994年夏の当別キャンパス全景。同年10月に20周年記念会館が完成し、JRの駅とキャンパスがスカイウェイで直結となった。上) 1995年3月、北海道医療大学駅に駅名変更。2012年、学園都市線(桑園～北海道医療大学間)が電化され、札幌駅からの所要時間は最速38分となった。

1995-2004

1997年 大学基準協会の第1回相互評価認定を受ける

国の方針に先行して、自己点検評価体制の確立に向けて動き出していた本学は、大学の評価を行う日本で唯一の民間団体である大学基準協会の第1回「相互評価」に申請し、1997年3月、「大学基準に適合」の認定を受けた。大学としての要件を備え、教育理念・目標の実現に向けて不断の改善・改革が行われていると認定されたのは全国22大学。その中で本学は、北海道・東北の大学として初、また、創設30年未満の大学として唯一であった。

2001年 札幌サテライトキャンパス開設

JR札幌駅から近く、北海道庁を見わたす好立地に2001年9月、札幌サテライトキャンパスがオープンした。生涯学習事業のほか、臨地実習のガイダンス、大学院の講義、同窓会活動、研修会など幅広く活用される活動拠点となった。



札幌市中央区北4条西6丁目の毎日札幌会館ビル6階に開設。ロビー、会議室、研究調査室、講義室2室を設置。

2002年 個体差健康科学研究所開設

学部横断の研究組織「個体差健康科学研究所」が、2002年1月に開設した。個体差健康科学とは、「人それぞれの個性に合った幸福を追求する科学」。オーダーメイド医療への転換が見られる中、各方面から大きな期待を集めた。



「遺伝子機能解析部門」「脳機能解析部門」「再生・再建医学部門」など、社会の要請に応える9部門の研究活動を展開。

2002年 ゆうゆう24開設

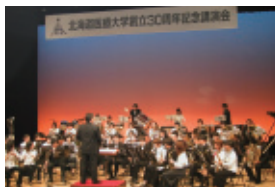
学生と住民が交流を深め、地域福祉へ貢献できる活動拠点を。そんな思いのもと、2002年5月、学生のボランティア活動の拠点「ゆうゆう24(当別町青少年活動センター)」が当別町に開設。学生主体の地域福祉活動がスタートした。



学部学科を越えて、延べ1,000人もが学生が開設準備に参加。多彩な活動は、後に全国から評価されることになる。

2004年 創立30周年記念講演会を開催

2004年10月2日、創立30周年記念講演会を開催。1部では、「健康って何だろう」をテーマとした高校生エッセイコンテストの表彰式と記念演奏が、2部では、遺伝子研究分野において著名な3名の先生方の講演が行われた。



記念演奏では本学吹奏楽団が校歌などを演奏。エッセイコンテストでは松井優佳さん(本誌p16)が最優秀賞を受賞。

2002年 全国初の心理科学部開設

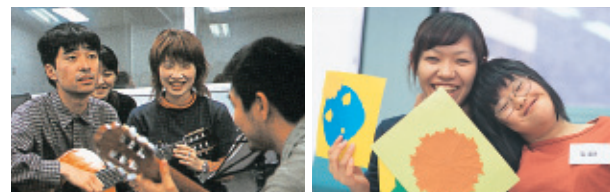
人々の心やコミュニケーションに関する社会的問題・事件が頻発する中、これらの問題に対処できる専門職業人の養成が急務とされていた。こうした背景を受け、本学では新しく心理科学部の設置申請を行い、正式認可の承認を得た。医療科学センターや医科歯科クリニックを有する札幌あいの里キャンパスに開設した心理科学部は、2つの点で全国初の学部となった。ひとつは名称そのもの、もうひとつは、臨床心理学科と言語聴覚療法学科というユニークな学科編成である。いわゆる人文系の大学にある心理学系学部とは異なり、心の基本知識を身体科学と対応・関連させたカリキュラムを編成。心の障がいやコミュニケーション障がいなど、現在の社会に顕在する問題に、科学的的手法で対処できる高度な専門職業人の養成を目的とした。



札幌あいの里キャンパスの心理科学部(臨床心理学科、言語聴覚療法学科)開設を機に、2002年、札幌医療専門学校(学生募集を停止した。その後、同校のすべての学生が卒業した2004年3月に同校は閉校。看護学科、介護福祉学科、言語聴覚療法学科の各養成課程は、教育の高度化を目的として、北海道医療大学の学部組織に発展的に組み込まれた。

2003年、2004年 2年連続で文部科学省の大学支援プログラムに選定

2003年、「地域・大学連携による医療系基本教育～ボランティア活動による教育を中心に～」と題されたプロジェクトが、「特色ある大学教育支援プログラム」に採択。「ゆうゆう24(当別町青少年活動センター)」を拠点に、在宅障がい児の一時預かりサービス創設、小中学生の福祉教育との連携、大学の施設利用で知的障がい者の生涯教育に資する「オープンカレッジ」の定期的開催など活動の幅は飛躍的に広がり、学生の学習意欲向上にもつながった。続いて2004年には、「地域への健康支援と融合・連携した学生教育」が「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択。当別町の健康増進計画をサポートするため、2004年8月、JR当別駅前に健診施設「歯の健康プラザ」を設立。大学と行政が一体となって気軽に歯科検診できる体制を整えた。プロジェクトには多くの学生が参加し、教育面でも効果があった。



左上・右上)「ゆうゆう24」を拠点に、学生が地域と一体となってボランティア活動を展開したプログラムが、コミュニケーション力、チーム医療などを学ぶ教育として評価された。左下・右下)当別町民の全員健診を目指した「歯の健康プラザ」では、疾患予防、生活習慣病に対する啓発活動をすすみ、歯学部生も口腔保健指導に参加した。

2005-2014

2005年 北海道医療大学病院開院

医科歯科クリニックの増改築工事、当別キャンパスからの歯学部附属病院病棟・手術室の移設などを経て、2005年7月、札幌あいの里キャンパスに北海道医療大学病院が誕生。高度で安全な医療の提供を通して地域社会へ貢献すると同時に、すべての学部での教育・研究に資する医療施設を目指し、医科部門、歯科部門に加え、医療相談・地域連携室、医療心理室、言語聴覚治療室なども設置。チーム医療、地域医療の実践の場がさらに充実した。



医科と歯科が密接に連携をはかりながら、先進的な医療を提供。4階には手術室と治療室が2室ずつあり、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科などの全身麻酔下での手術、歯科インプラント手術や歯周外科手術などが行われる。

2008年 SCP制度導入開始

学生にも大学生活に関わる各種プロジェクトの企画立案に参加してもらうため、2008年6月、SCP (Student Campus President: 学生キャンパス副学長) 制度を導入。学内施設・サービスの改善やエコ対策など、教職員と学生の協働によるブランディングプロジェクトを開始した。各学部から1名ずつのSCPを選挙により選考。任期は1年。活動費支給、活動室設置など待遇面の整備も行われた。



2013年 リハビリテーション科学部開設

少子高齢化などさまざまな困難を抱える新たな時代を背景に、保健・医療・福祉の分野において貢献する高度なリハビリテーション専門職の養成を目的として、2013年4月、理学療法学科と作業療法学科の2学科から構成されるリハビリテーション学部を開設。これによって本学は5学部8学科となり、医療系総合大学としてさらに進化した。両学科では、医科学系科目の充実、チーム医療の理解と実践など、他学部と連携した教育を展開。また、地域社会に貢献できる人材の育成を目的に、コミュニケーション力の育成や臨床教育も重視している。



2012年7月29日の北海道新聞朝刊に、これからの地域社会と本学リハビリテーション科学部新設に関する記事が掲載。

2007年 札幌医科大学と連携協定締結

さらなる医療の発展に貢献するため、2007年3月、札幌医科大学と教育・学術研究・地域貢献に関する連携協定を締結。そこから生まれたプロジェクトのひとつが、『多職種連携型「メディカルカフェ」の開設による地域医療の向上を目指して』であり、新しい地域医療へのアプローチとして、同年の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に選定された。



両大学の学生自らが企画・実践する「メディカルカフェ北海道」を定期的に開催。市民と科学者をつなぐ「サイエンスカフェ」と同様に、地域住民と学生を双方向型医療コミュニケーションでつなぐ場として注目を集めた。

文部科学省に選定された教育改革プロジェクト (2007年～2012年)

- 現代的教育ニーズ取組支援プログラム
多職種参加型「メディカルカフェ」の開設による地域医療の向上を目指して (2007)
- 社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム
全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座 (2007)
- 大学院教育改革支援プログラム
科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育 (2007)
言語聴覚士卒業研修プログラムを含む大学院～医療技術系大学院の教育モデル～ (2007)
- がんプロフェッショナル養成プラン
「北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム」～大学、地域、病院の連携を生かしたがん専門医療人の育成～ (2007)
- 戦略的学術連携支援事業
北海道の地域医療の新展開を目指した異分野大学院連携教育プログラムによる人材育成 (2008)
口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考 (2008)
- 社会人の学びなおしニーズ対応教育推進プログラム
地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム (2008)
- 大学教育・学生支援推進事業
「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援 (2009)
- 大学間連携共同教育推進事業 (分野連携)
ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成 (2012)
- がんプロフェッショナル養成プラン
北海道がん医療を担う医療人養成プログラム～地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進～ (2012)

2010年 札幌サテライトキャンパスがアスティ45に移転

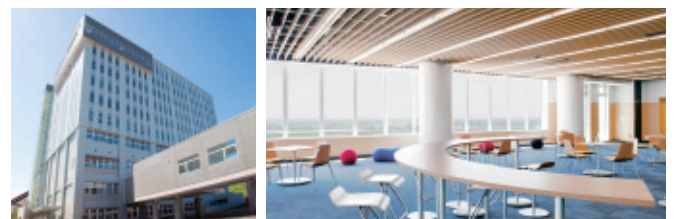
2001年、毎日札幌会館6階に開設された札幌サテライトキャンパスは、生涯学習事業、大学院講義、同窓会活動などの利用の増加にともない、2006年10月に日本生命札幌ビル、2010年4月にはJR・地下鉄札幌駅から徒歩3分のアスティ45 (ACU内) 12階に移転した。



ラウンジ、講義室2室、会議室2室、研究調査室を設置。講義室は、連結するとスクール形式で最大108名収容可能。

2013年 中央講義棟増築完成

リハビリテーション科学部の新設にともない、既設の中央講義棟の増築工事に着手。地上10階建て、本学の新たなランドマークが、2013年3月に完成した。6階と7階には理学療法学科、作業療法学科が使用する各実習室が、4階と5階には大講義室やLL教室などが設置された。さらに、最上階の10階には、広大な石狩平野を一望できる展望ラウンジが整備された。



10階のビューラウンジは、全学部学科の学生が自由に活用しており、診療や薬草園見学などのために訪れた地域の方々の憩いの場としても機能。さらに、2014年4月、「ダブルトルカフェ北海道医療大学店」がオープンした。



左) 2013年夏の当別キャンパス全景。リハビリテーション科学部の新設にともない、地上10階建ての中央講義棟が同年3月に完成。右) 2013年夏の札幌あいの里キャンパス全景。医科歯科クリニックは増改築工事などが行われ、2005年7月、北海道医療大学病院として新たにスタート。